



三股町成人式

通知のない人は連絡を
とき 平成7年1月5日(木)
9時受付、10時挙式
ところ 勤労者体育センター
新成人者の皆様にはハガキで通知してありますが、届いていない方は生涯学習課にご連絡ください。
生涯学習課 ☎ 1111

第5回三股町生涯学習フェスティバル

生涯学習はいつでもどこでも・だれでも・ふれあいの交流の中で自分を磨くことができ、また新しい自分を発見することができます。
日時 11月27日(日)
8:30 開場
9:30 開会
場所 勤労者体育センター
参加者 誰でも参加できます。
内容 ・生涯学習事例紹介
・大正琴「演奏」
・シンポジウム

町立病院に 整形外科



医師 田代 宏一先生(40)

近年、高齢化社会を迎え各方面からいろいろな高齢化対策がなされておりますが、この度三股町立病院においても、地域住民の要望に答え整形外科診療を始めることになりましたのでお知らせいたします。整形外科においては、骨折・関節あるいは脊髄等の疾患がありますが、特に高齢になると腰が痛いとか、膝が痛いとか節々の疾患が増えてきますので、これらにも適切に対応できることを望んでおります。

田代先生は、昭和57年に宮崎医科大学を卒業後、同大学の整形外科に入学し、国立都城病院整形外科医長、国立療養所宮崎東病院理学診療科医長等を経て、三股町立病院へ招いたものであります。今後とも、内科・外科・皮膚科・リハビリ・在宅介護支援センターと同様よろしくご利用くださいますようお願い申し上げます。

第46回人権週間 12月4日～10日

「子どもの人権を守ろう」
人権が侵されたり、侵されるおそれがあるとき、いじめ、体罰そのほか家庭内の問題、借地、借家、登記、金銭消費貸借問題など色々なことでお困りの方は、お近くの人権擁護委員または宮崎地方公務局都城支局へご相談ください。相談は無料で秘密は固く守られます。

町内の人権擁護委員

- 草留千枝子
- 轟木 秀明
- 赤池 徹

◆宮崎地方公務局都城支局
都城市八幡町15街区10号
☎ 0490

今月の納税

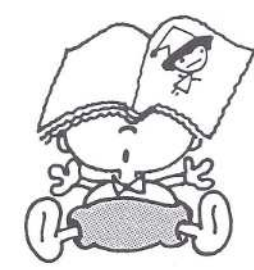
固定資産税 3期
納税等は便利な口座振替を利用しましょう。

図書室の休日

12月の休日 (中央公民館図書室)

週	日	月	火	水	木	金	土
①					1		
②		5	6				
③		12	13				
④	18		20			23	
⑤		26	27	28	29	30	31

数字は休みの日。12月26日から12月31日までは休館します。



愛のご寄付

三股町社会福祉協議会では、忌明け寄付を次の通りいただきました。故人のご冥福をお祈りいたしますと共に、社会福祉発展のために有意義に利用させていただきます。誠にありがとうございました。

平成6年10月1日から平成6年10月31日まで

寄付者	続柄	故人名	地区	金額
尾辻 幸子	父	清春	植木	3万円
植原 寧彦	母	キクエ	田上	2万円
今村 利治	母	ヨシ子	餅原	2万円
和田 利明	母	ヨシ	東原	5万円
児まきみ子	夫	勝義	植木	2万円
出水 ヒデ	夫	銀蔵	谷	3万円
佐藤 トキ	夫	惣治	77内ノ木場	2万円
今村 繁	母	フヂエ	餅原	3万円
小林サダ子	姉	蔵元益美	(41) 上米	1万円
間世田重則	妻	ヨシ	(71)内ノ木場	2万円
二宮 博夫	義母	スマ	仲町	5万円

三股町の人口

平成6年11月1日現在

男 10,764人 出生 23人
女 11,835人 死亡 11人
計 22,599人 転入 111人
前月比+43人 転出 80人
世帯数 7,722戸(+20戸)

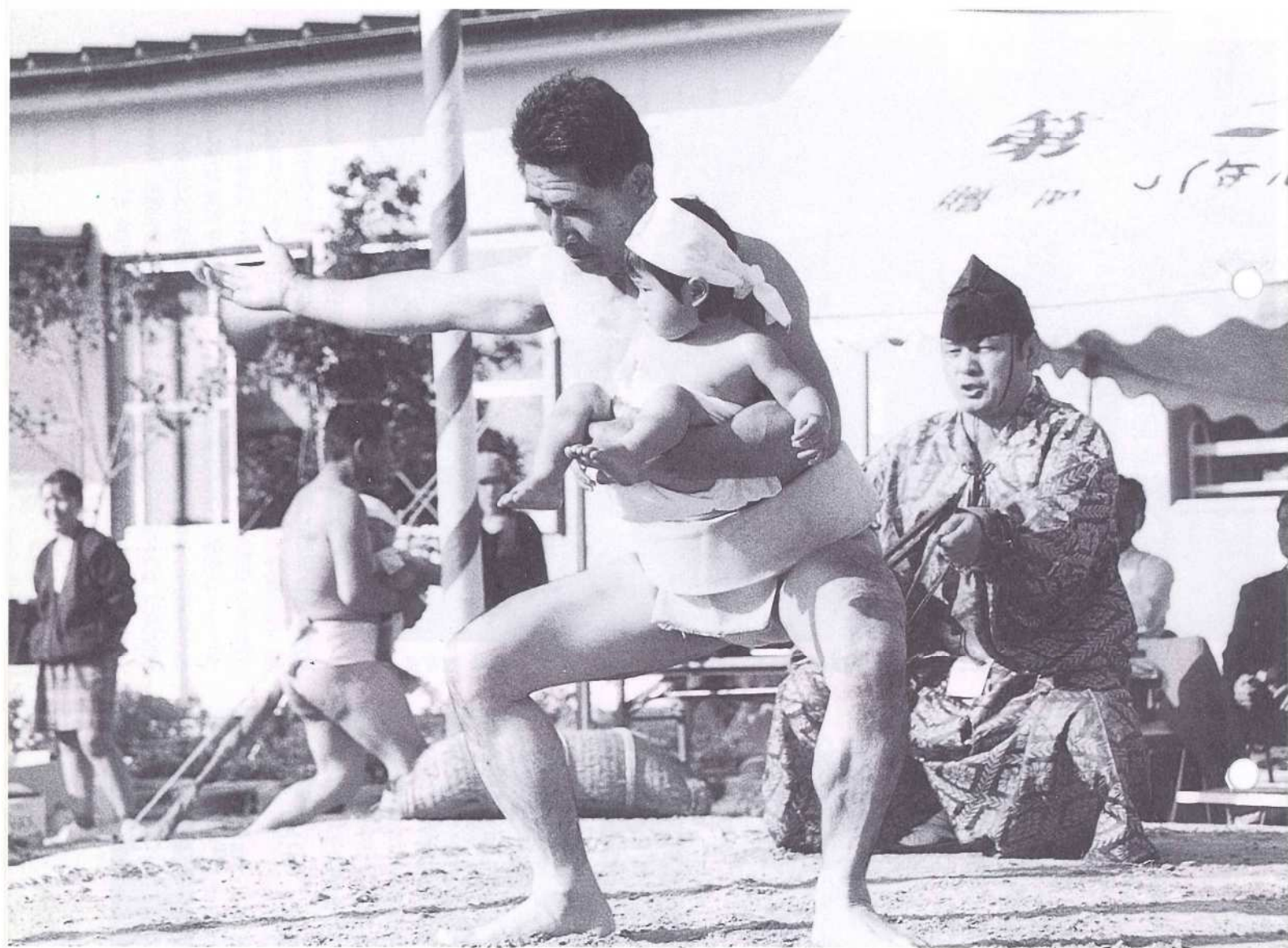
今月の内容

三股町表彰式	2
第5回町議会定例会	3
ふるさとへの便り	4
贖いの日々	5
さわやかスポーツ祭	6
町の話	7
子どもの声を聞く会	8~9
お知らせ	10

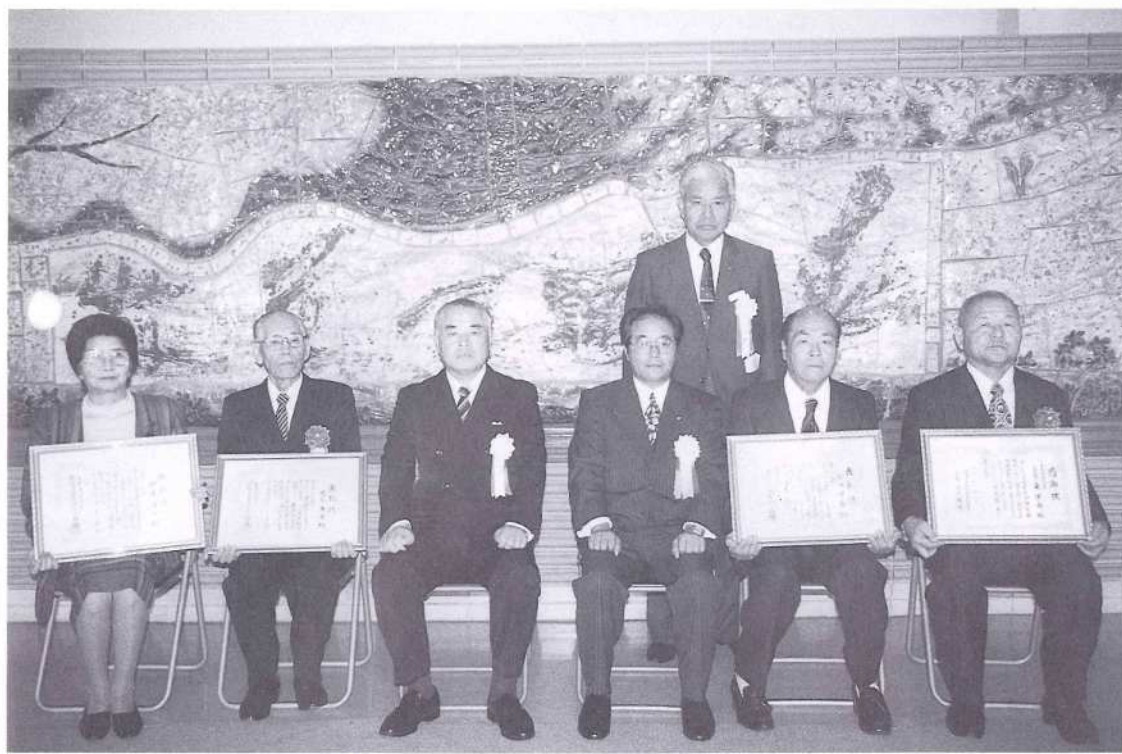
親と子のふれあい標語

- 「親と子の たえず聞こえる 笑い声」
三股小6年 中村 大地
- 「親と子で 仲よく作ろう 楽しい家庭」
三股小4年 小山田芳江
- 「親も子も みんな仲よく 家庭の日」
三股小4年 中村 麻里
- 「良い家庭 笑いがいっぱい つまってる」
梶山小6年 古川 雅樹
- 「親と子の 会話がはずむ 日曜日」
三股西小5年 合沢 尚記
- 「信頼と絆で築く 明るい家庭」
三股町新馬場 田邊 幸雄
- 「団樂で非行を作らず 早寝する」
三股町夢池 堂村美津子

榊山相撲25年ぶりに復活 (赤ちゃんの土俵入り)



11月3日に町表彰式 功労賞2名・善行賞1名を表彰



前列右から 東さん、宮田さん、議長、町長、児玉さん、西寺さん 後列 教育長

平成6年度三股町表彰式が11月3日、役場大会議室で開かれ、元町農業委員会委員の児玉兼重さん(73歳)ら3名が表彰されました。表彰式は、各分野で本町の振興発展に貢献された人や町民の模範となる善行をされた人を顕彰するため毎年「文化の日」に行っているものです。式には町長をはじめ、町議会議員や教育委員、自治公民館長、各民主団体の長など関係者110名が出席し、授賞者を祝福しました。また式の中で、東 健爾さん(65歳)に町社会福祉協議会から感謝状が贈られました。

功労賞

行政部門

児玉 兼重さん

児玉さんは本町農業委員会委員として農政部長をはじめその他の役職に就き、公正な農業行政の遂行に当たり農業経営の合理化、農業者の生活改善等に積極的に取り組み、本町の農業振興発展に尽力された功績は大変大きなものがあります。

功労賞

行政部門

西寺 君子さん

西寺さんは本町民生委員児童委員として社会福祉の仕事に理解と熱意をもって、一人暮らし老人・寝たきり老人・母子・生活困窮者等の家庭を積極的に訪問し相談のするなど幅広い活動を続けられ、本町の福祉の向上の発展に寄与された功績は大きなものがあります。

善行賞

高齢者多数に

名前入り湯呑みを寄贈

宮田 兼重さん

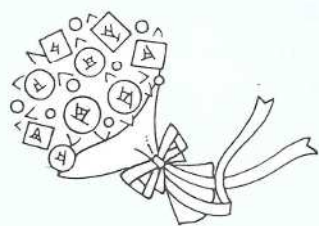
宮田さんは長田でやきもの陶を開業されて10年目を迎えられ、その節目として、これまで故郷づくりに貢献されたお年寄りを敬愛され、敬老の日には町内の喜寿以上1,053名に名前入り湯呑みを贈られたものです。

100万円寄付者

東 健爾さん

東さんは福祉充実を願われ、社会福祉事業に役立ててくださると100万円寄付されました。

社会福祉協議会感謝状



第5回町議会定例会

第5回町議会定例会(9月)は、9月30日招集され、10月12日までの13日間にわたって開かれました。

定例会には、前年度の国民健康保険病院事業会計決算・水道事業会計決算(公営企業会計決算)や本年度の一般会計補正予算案、条例案など13議案が提案され、それぞれ常任委員会で慎重審議された後、最終日の本会議で可決されました。

また人事案4件、追加議案2件が提案され可決されました。

成立した主な議案

一般会計補正予算

62億2千984万4千円に歳入歳出それぞれ4億2千357万9千円を追加し、歳入歳出の総額が66億5千342万円になりました。

補正予算の主なもの、旧庁舎防水工事費1千948万円、今市9号線など道路維持工事費4千万円、農道整備事業費1千525万円、町民会館用地購入費1億3千119万8千円、第4地区公民館広場整備工事費1千300万円、



町立病院改修補助金2千800万円などです。

三股町ごみ減量化

器具等貸与条例

この条例は、年々増加するごみ対策のため、ごみの減量化及びごみの再利用並びにごみ環境整備等のため、町民及び民主団体等が実施する事業を助成することにより、ごみに対する住民の意識の高揚を図り、ごみの再利用・ごみ処理費用の抑制・埋処分場及び焼却施設等の延命化を図ることを目的とし、貸与を受けることのできる者は、町内に居住する者のうち、町が指定する簡易焼却炉(プロック造り焼却炉を含む)及び生ゴミ処理器等を自宅に設置する者となります。

公園条例の一部改正

旭ヶ丘運動公園陸上競技場を利用する場合、11月1日より使用料を徴収することになりました。

単 位	金 料	
	町 内	町 外
6時～8時	0円	0円
8時～12時	500円	700円
12時～17時	700円	1,000円
8時～17時	1,200円	1,700円
17時～19時	0円	0円

固定資産評価審査委員に

木佐貫克美氏(60)を選任



固定資産評価審査委員を3期9年間努められた小牧憲三氏(78歳)の勇退に伴い、その後任に木佐貫克美氏(60)が選任されました。木佐貫さんは元県職員。北諸県福祉事務所や都城土木事務所、都城県税事務所納税課長などを歴任さ

れ、平成6年都城県税事務所総務課長を最後に退職されています。

人権擁護委員に

轟木秀明氏(67)を推薦

人権擁護委員に、轟木秀明氏が再推薦されました。



人権擁護委員に

赤池 徹氏(59)



人権擁護委員を1期3年間努められた隈元喜一氏(69歳)の勇退に伴い、その後任に赤池 徹氏(59)が推薦されました。

赤池さんは元法務局職員。宮崎地方法務局門川出張所長や宮崎地方法務局都城支局総務課庶務係長などを歴任され、平成5年宮崎地方法務局登記部門総括登記官を最後に退職されています。

医療保険制度の改正

10月1日から

入院時の食事代に一部負担の導入

(1) 一般の方	1日 600円
(2) 町民税非課税世帯等の方	1日 450円
(3) 町民税非課税世帯等の方で平成6年10月1日以後の入院日数が90日を越えた時から	1日 300円
(4) 町民税非課税世帯等の高齢福祉年金受給権者	1日 200円

(2)(3)(4)に該当する方は負担額が軽減されます。

② 出産育児一時金の創設



ふるさとへの便り

鮫島 康子 (47)

〔旧姓：桑畑（山王原出身）〕



解く間もなく東京へ。

「近くて遠い」としみじみ思いつつ、いつ帰っても心安く、気兼ねなく、つい先日そこに座って世間話などしていたごとく迎え入れてくれる、しかも私の家族丸ごと全部を包み込んでくれる隣近所の人達に、何の不思議も感じることなく、ごくごくあたり前のことと受け止めていられるこの感覚、時間も距離も一瞬のタイムトンネル、心の和むふるさとです。

福原さんから「ふるさとへの便り」のバトンを受けた後で、やっぱり困りました。こまったなと思いつつながら私の脳裏に鮮明に浮かんだのは、町立病院の向こうにある伯母のみかん山から見た、見渡すかぎりの菜の花畑とれんげ畑の、それはそれは見事な花の絨毯なのです。その時以来三十数年、あのみかん山に立っていない。なのにその風景は色褪せるどころか、私の中では、ますます鮮やかな色彩を放ち、幾度となく子供達にも話して聞かせ、うらやましがられた三股の自然なのです。ところが、10月16日の朝日新聞に「東京卒業」というメッセージを山口県が出しました。単にUターンするだけで

なく、意識の上でふるさとの良さを見出してほしいという呼びかけ、自然とか、時間とか、広い家とか、肉親とか——だけじゃない。何かがあるはずと……

23才の10月まで生活してきたけれども、それはすべて親の庇護のもと、自分で生計を立て、自立し、地域の人々と一緒に、地域のために働いたことはほとんどないので、年に一度くらい数日滞在して、自分のイメージの中で穏やかな空気の流れを楽しみ、ゆったりとした気分に戻り「また来るね」と引き揚げる。

あの新聞のメッセージは、私の自分勝手な感情に浸るだけのふるさとにはいけないと考えさせられました。

今、東京の江戸川に住んで24年。すっかり江戸川に馴染み、家の前のビニールハウスの春菊や小松菜、農家の人が自家用に作っているおいしい枝豆など時にはいただき、天気の良い日には、江戸川の土手のサイクリングロードを自転車で走り、週に2回はスイミングスクールに通い、友達と年に1、2度泊りの旅行に出かけ、時々、娘や息子に「最近手抜きしている」と睨まれても、それほど気にもかけず、そのくせ、もうすぐ50才になる。これでいいのだろうかという焦りもあるのです。そんな時、中学の同級生の集まりで、それぞ

れの立場で活躍し、頑張っている人達を間近にすると、しつかりしなくてはと励まされ、盛りだくさんの話に時間を忘れ、すっかり満足して、また次に会うのが楽しみになります。

準備万端整えて、お誘いの電話をくださった方には深く感謝し、三股会の取り持ってくれた「みんな」の縁を大事にしたいと思いま



おでん

おでんに、かん酒の季節になりました。屋台や縄のれんのおでん屋というと、ちょっと若向きでないイメージがあります。でも、おでんは最近の若者にも人気があります。コンビニエンス・ストアなどで、おかずに買っていく姿を見かけます。

おでんというのは、煮こみ田楽の愛称のことです。田楽の語源は、田植えのとき豊作を祈って踊った田楽舞に関係があると言われていてみそをつけたものが起こりだったようです。

その後、こんにゃくや大根、里芋などの野菜類、アユやウグイ、ヤマメなどの魚類にも田楽の手法を使いました。魚類の場合を魚田

す。そして、いろんな企画を立て、三股と、三股を離れて生活している人とのつながりを、大切にしてください。皆様にお礼を申し上げます。

次は佐沢明博さん（下新出身）にリレーします。

（魚の田楽）、野菜類の場合をおでんと呼ぶようになりました。やがて煮こみにしたものを、便宜上おでんと名づけたのです。

煮こみおでんは、江戸末期ごろから盛んになりました。おでんとかん酒が庶民に広がり、屋台などで売られるようになったのです。

関西でも煮こみおでんが売られるようになりましたが、焼き田楽と区別して、「関東煮」と呼び、今もこの名が残っています。その後、おでんは関西のほうが盛んになり、関東は、関東大震災以後、再び復活してきたといわれています。

あがな 贖いの日々

はみ出し運転が もたらしたパニック

システムエンジニア 23歳

平成3年3月31日、深夜の出来事でした。

その日、友人からドライブの誘いを受けた私は自分の車で出かけましたが、事故はその帰り道で起こったのです。それは、思いもよらなかった恐怖の体験であり、取り返しのつかない大惨事になってしまいました。

長い直線道路が続き、緩やかなカーブにさしかかる手前でした。家を出るときは降っていないが、雨がポツリポツリと降りだし、次

第に雨脚が激しくなり始めていました。街灯もない県道で、悪条件が重なり、いっそう見通しが悪くなっていました。

走行車線の前方に停車している車を認めた私は、その車を避けようとして対向車線にはみ出しました。その際私は、対向車がないことを確認したつもりでした。しかし、カーブにさしかかるところだったために見逃してしまったのか、あるいは、深夜で交通量がほとんどなかったために対向車の確認をおろそかにしてしまったのか、突然、ドンと言う音とともに何かに衝突しました。一瞬、何にぶつかったのかまったくわかりませんでした。対向車がないことを確認したつもりは、ぶつかるようなものを何一つ思いつかなかったのです。

何に衝突したかはわからなかったものの、とりあえず止まろうとして、私はブレーキ・ペダルを踏み込みました。いえ、踏んだつもりでした。しかし、突然の衝撃にあわててしまった私の右足は、アクセル・ペダルを踏んでいたようです。停車しようとする私の意志

とは反対に、車は加速するばかりでした。この状況の下で、私はすっかりパニックに陥ってしまいました。

何度も何度もブレーキに足をもってこようとするのですが、足がいうことを聞かず、車は止まってくれませんでした。速度は、七十キロ、八十キロと増すばかり。暴走する自分の車が前方車両、対向車両とぶつかりそうになる。それをハンドル操作で二台、三台とかわしていく。しかし、ついにかわしきれず、猛スピードのまま正面衝突……

この間、私は悪夢を見ているような思いでした。もう駄目だと思いました。そして、私は気を失いました。

この事故によって、初めに衝突した車の運転手が軽傷、正面衝突した車の助手席に乗っていた十九歳の男性が死亡、その運転手が重傷、と大変な犠牲を出す結果となりました。

相手が死亡したことを、私はしばらくの間知らされずにいました。警察側の配慮もあったようですが、一ヶ月後、まだ入院中だった私にそのことが知らされたのでした。その時、私は全身から血の気が引き、目の前が真っ暗になりました。

この事故のために刑務所に入ることになるとは、事故直後の私



には考えも及ばないことでした。しかし、自分の不注意からこれだけの重大な被害を出してしまったのですから、ただで済むはずはありません。そして、一人の人間の命を奪ってしまったことを知った私は、徐々に自分の犯した罪の重さを感じ始めました。

（東京交通安全協会発行
「贖いの日々」第28集より）

交通安全啓蒙駅伝競走大会

日時 12月4日(日)
8時30分開会
10時10分スタート

平成6年9月30日現在

交通事故(人身)

発生順位

県内 31位

(県内44市町村中)

町の話あれこれ

身近なニュースや話題をお寄せ下さい

総務課 ☎52-1111



県老人クラブ大会で 大崎正健さん表彰

県老人クラブ大会が、9月28日宮崎市民会館で開催され、大崎正健さん（85歳）が優良老人クラブ会員表彰を受賞されました。

大崎さんは、仲町老人クラブに所属し、町老人クラブの発展と地域福祉の向上に寄与された功績はもとより、12年前から町内の高齢者を対象に高齢者スポーツ教室（寿クラブ）を開催されています。高齢化社会を迎え、元気で長生きできるように、また、老後を孫たちと楽しく過ごすために、室内で簡単にできるゲームや屋外においては足腰を丈夫にするためグラウンドゴルフ・ハイキング等を取り入れ、健康体力づくりに取り組まれておられます。

今後も、高齢者の方々の体力増進のために頑張ってください。

第31回 町老人クラブ大会

町老人クラブ大会が10月21日、町体育館に会員や来賓等450名を集めて開かれました。

席上、クラブの育成発展に貢献した人や寝たきり老人の介護者など12名が表彰されました。

被表彰者は次のとおりです

永年功労者
小牧正二（轟木）久保田政武（轟木）
轟木次男（轟木）柳橋光保（下新）
下西政則（上米）山元フク（上新）
草留千枝子（仲町）大崎正健（仲町）
桑島逸雄（山王原）
ねたきり者の介護
段 徳子（大鷲巣）
中村ユミ子（植木）
松永洋子（勝岡）



稲刈りと脱穀を体験

三股小5年生

実りの秋を向かえ、三股小学校（桑畑初校長、児童数587名）5年生111名は、10月13日谷で稲刈りと足踏み脱穀の体験をしました。

稲は6月に子供たちが泥にまみれながら田植えをしたもの。稲刈りはもちろん、鎌を持つのも初めての子供がほとんどでしたが、交代で田んぼに入り、黄金色に実った稲を慎重に刈り取りました。

また、子供達を喜ばせたのが、昔、稲落としに使っていた足踏み脱穀機。先生の指導で楽しく実を落としていました。

ミュージカルに642名

三股町青年団

10月25日武道体育館において、青年団主催によるミュージカル「ウェディングベルがききたく」が開催され、642名の入場者があり大盛会でした。

現在青年団の加入数は50名位で活動していますが、今回の催しで青年団の結束、やる気を感じ今後の団活動に弾みができたのではないのでしょうか。三股に住んでいる若者の皆さん地域の青年団に加入し、地域あるいはまちづくりにあなたの意見、行動を起こしてください。



第2回 三股町 さわやかスポーツ祭 3種目に1,000名が参加

10月9日

第2回町さわやかスポーツ祭は10月9日、武道体育館を中心会場に約1,000人の選手が参加して盛大に行われました。

スポーツ祭は、午前8時30分から武道体育館で総合開会式が行われ、勤労者体育センターや町体育館、三股中体育館など数会場に分かれ、3種目で熱戦が繰り広げられました。

なお当日は雨で、屋外競技のグラウンドゴルフと健康体力づくり歩こう会の2種目が中止となりました。

結果は次のとおりです。

ミニバレーボール

- ☆フリーの部
優勝 金曜会
準優勝 中央クラブ
第3位 つくし
- ☆36歳以上の部
優勝 長田ミニA
準優勝 夢池ミニ
第3位 下新ミニ



- ☆46歳以上の部
優勝 城山
準優勝 大鷲巣
第3位 つくしミニB
- ☆55歳以上の部
優勝 上米A
準優勝 ナイン
第3位 フレンドA



子ども相撲

- ☆団体の部（男子）
優勝 宮村C
準優勝 宮村A
第3位 東原A・宮村B
- ☆団体の部（女子）
優勝 宮村A
準優勝 宮村C
第3位 山王原C・宮村B
- ☆個人の部
1年生（男子） 野崎雅彦 中原唯
優勝 折田充範 泉 杏広
準優勝 盛田 靖 池田佳織
第3位 下石康太 木差貫綾子



- 2年生
優勝 西田翔平 瀬尾あゆみ
準優勝 山口龍史 本村真由子
第3位 池之上直也 藤後千里
上田 武 高橋あゆみ
- 3年生
優勝 佐伯直人 三谷 萌
準優勝 常盤晃弘 中原 葵
第3位 藤村委嵩 永瀬 舞
去川雄太 宮路和葉
- 4年生
優勝 谷口 司 畑中とも子
準優勝 萩原浩己 白坂和美
第3位 吉村 渉 田代花英
畑中将吾 坂元えりか
- 5年生
優勝 川畑智浩 栗野智子
準優勝 西田将和 園田美和
第3位 園田博継 上沖夏子
栗山三代 松原愛子
- 6年生
優勝 森 和也 大盛奈緒
準優勝 萩原 卓 福原真理
第3位 西村拓磨 河内文香
- ☆ミニテニス
優勝 上西幸一・恵子
準優勝 飯田辰美・もと子
第3位 轟木 修・美保子



子どもの声を聞く会

(その1)

子どもたちが日頃考えていることや、郷土づくりなどの意見を聴こうと、「子どもの声を聞く会」が11月3日、役場大会議室で町表形式に引き続いて開かれ、各小中学校の代表児童・生徒9名が力強く意見を発表しました。

こんな人になりたい



三股小学校6年 山元 友子

私の将来の夢は、保健婦になることです。人によってそれぞれ夢は違いますが、私が保健婦になりたいと思ったのは、人に頼りたい、お年寄りや体の不自由な人の手助けをしたいと思ったからです。

去年私は、赤十字委員だったので、委員会の方から、いろいろな福祉活動の参加がていくつか参加してみました。

町内の福祉センターで行われた、福祉体験スクールでは、町内二人におんぶしてもらったり、遊んでもらったりしたそうです。つまり、兄や姉は、私にとって兄弟としてだけでなく、母のような役割もしてくれてくれたのです。このことに気がついてから、私は、一つ一つの自分の仕事を、「兄から姉へ、姉から私へ引きつられた大切な仕事」として責任を持って取り組むようになりました。その後、働くことを通して、自分が家族を支える一人であることが、少しずつわかるようになってきました。

「家族の一員」として、さらに私の自覚が高まったのは、母の入院でした。ほとんど病室知らずで明るく、休みの日でさえ、1日中家の事をしている母でしたので、兄弟3人のショックは、とても大きかったです。しばらく、祖母との生活が続いた後、母が退院してからも、しばらくは自分達でできる限り家の仕事をしました。私は、そうじや整理整頓をしましたが、どこに何を置けばよいのかわからず苦労しました。たったこれだけのことがうまくできないことを考えると、日頃の母の大変さが身にしみて感じられました。仕

ではどの地区にどんなお年寄りが何人いるのかという事を調べました。もちろんねたきの方もおられました。その方達はまだまだな方でした。この後に町内の養護施設を2、3ヶ所見て回りました。そこでねとまりされていられる方が家族が見てくれずしかたなく、施設へと入っていらつしやる方もいるのです。

2年前、母は福祉センター保健婦さんと、リハビリの手伝いをしていました。私も何度か見学に行きましたが、みんなニコニコしていて、とても楽しかったです。これが私が保健婦になりたいと思った一番のきっかけでした。

施設も、元気な方はいっぱいおられるのだから、自分の家で一人見ると楽しいはず。親は自分たちで見るとあきらまえて思っていたのですが、今は全ぜんちがってしまいました。だれだって年をとればあんなふうになっていくのだから、もちろん自分も、だからどうせなら家の方がいいはず。でも、こんなことを言っている私の家族も同じようなことをしていました。

2年前に死んだおばあちゃん、ねたきで、はじめは見てい

たのですが、日が経つにつれて、病院通いがつくなくなり、しまいはあずける事になりました。後になって、やっぱり家で見ようかと思ったその時はもう手遅れでした。やっぱり死んだおばあちゃんも家にもどりがたかったはず。本当に悪いことをしてしまつたと、おばあちゃんの写真を見るたびにそう思います。だからその分おばあちゃんの変わりにといてもふくめて、こういう仕事をしたいと思います。

そして今年もハンディーキャップ体験スクールに参加し、目、耳、口、足にハンディを持っていて人の体験をしました。目かくしをしてつえをついて歩いたり、耳にわたをつめて大きな音で音楽をかけたゲームをしたり、口に氷をつけて話し、車いすに乗ったり、ひざの所にダンボールをつけて階段をのぼったり、松葉杖をついたりしていろいろな体験をさせていただきました。何個か楽しみにしていたものもありますが、とても簡単にできるものはありませんでした。こんな私達でさえが難しいことを不自由な方はもっと大変でしょう。目が見えないというのが一番不自由に感じ、こわくも感じました。こうして人の知らないこともわかり私はこのスクールに参加して、これからの人の見方が変わってきたような気がします。こ

私は教師になりたい



梶山小学校6年 花岡 あかね

私が始めて三股町に来たのは、まだ母のおなかの中でした。今年でもうすぐ、三股に住み始めてから13年目になります。私の父は山田出身、母が三股の出身でした。私には、小学校の教師になりたいという夢があります。

保育園に通っていたころは、自分で店を開いたり、花屋になりました。などと思っていました。

でも、小学校に入ってから、1年生の時はずっと、教師になりたいという夢は変わりませんでした。

私が、小学校の先生に興味を持ち始めたのは、今まで教えていただいた先生方の中にもあります。1年は松尾睦子先生、2年は西畑幸一先生、3年渡辺真理先生、4年福長耕一先生、5年日高誠一郎先生、そして今、杉木祐二先生というふうに参加持たれてきました。1年から6年まで、すべての先生がいろんなところを持っておられました。字がきれいだったり、ピアノが上手だったり、体育がう

家族の一員として



勝岡小学校6年 有村 いずみ

「いつもありがとうね。いずみを生んで、ほんとうによかったよ。」これは、私が手伝いを終えたときの母の口ぐせであり、私が最も好きな言葉でもあります。私は、この言葉を聞く度に、母にほめられた喜びで胸いっぱいになります。

私が、「家族の一員として」というテーマについて考えるようになったのは、以前、道徳の時間に、「レモンと玉ねぎ」を読んだのがきっかけです。主人公のミチが、母のために朝早く起きてご飯のし

まってる協力する場面が印象に残りました。私は、この話を読んで、家族の一員としての自分の家庭生活を、見つめ直さなければならぬと考えました。

私の家は、母、兄、姉、私の4人家族です。母は、毎日、夕方6時半まで病院の調理場で働いているので、兄弟3人、それぞれ自分の仕事をして母を支えていかなければなりません。

私の主な仕事は、学校から帰ってからの風呂そうじや湯わかし、洗たく物の取り込みやそれをみんなの分たんでたんすにしまうことなどです。

また、ふとんのあげおろしもしています。6年生ともなると、学習内容が難しく、宅習の量を増やさなければなりません。その上、私は、剣道をしているので、時には帰ってから、ネコの手もかりたいほどいそがしいことがあります。

今でこそ私は、自分の仕事があり苦になりませんが、最初は、きつい思いを何度もしました。そして、仕事の数を兄や姉と比べて「なぜ、自分だけ仕事が多いのだろう。」と悩んだこともありましたが、兄や姉は年上なのだから、私より多くの数の仕事をするのが当然だというのが、その頃の私の考えでした。しかし、しばらく悩んでみて気づいたのですが、兄や姉は、私がしているような仕事を、

まかったり・・・

そんなところに、心が引かれ、教師の夢はますますふくらみましました。

それに、三股町とは限りませんが次の子ども達のためにきつと役立つと思えます。

私は、1学期に作文を書いて、夏休み、ふるさと人材育成派遣団員として北海道に行ってきました。この事業の目的が「この研修でいろいろなことを学び、しょう来、ふるさとのために役立てよう」というものでした。

私は、この事業に参加したとき、北海道への目標を決めました。そして、その目標にそっていろいろなことを体験し、学んできました。宮崎と北海道のちがいが、気候、また特産物など・・・

9月の解団式でどこかの先生が、「北海道で学び経験したこと、しょう来、ふるさとのために役立ててください。」とおっしゃいました。

教師は、三股町にだけはいられません。が、北海道に行つて学んだことは、おおいに生かせるでしょう。

私は、ほかに、三股町に役立つ仕事はないかと考えてみました。三股町に住んでいる人達のためになる仕事といえは

- ・ 役場関係の仕事
- ・ 図書館の受付

か看護婦

- ・ 老人ホーム
- ・ ホームヘルパー
- ・ 給食センター
- ・ ゆうびん局
- ・ 保母
- ・ 教師

ここにも書いたものは、三股に住んでいる人にとつて、なくてはならないものです。

かん護婦は、三股町の人が病気になるたときなど、とても大切な仕事です。

老人ホームやホームヘルパーは、お年寄りが多くなつてきている今、若い人はなりたがらないかもしれませんが、必要な仕事です。保母も教師と同じで、三股町だけというわけにはいきませんが、子ども達にいろいろなことを教えるための大切な仕事だと思えます。

本当に、このような仕事につけたらいいなと思います。それが、自分が北海道に行かせてもらったことの、恩返しになるのではないかと思います。

そして、自分がそんな仕事につけたら、次の代の子供たちに、私が北海道に行かせてもらったように、貴重な体験をさせてあげられる機会をあたえてやりたいと思います。